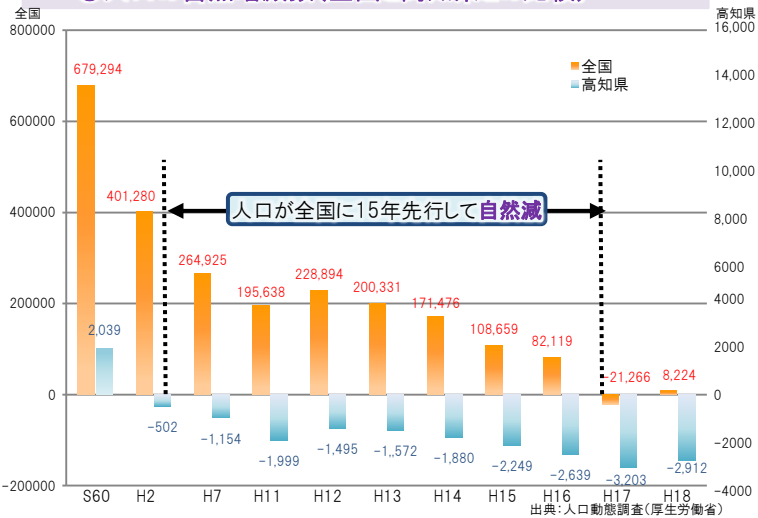


高知県の経済情勢

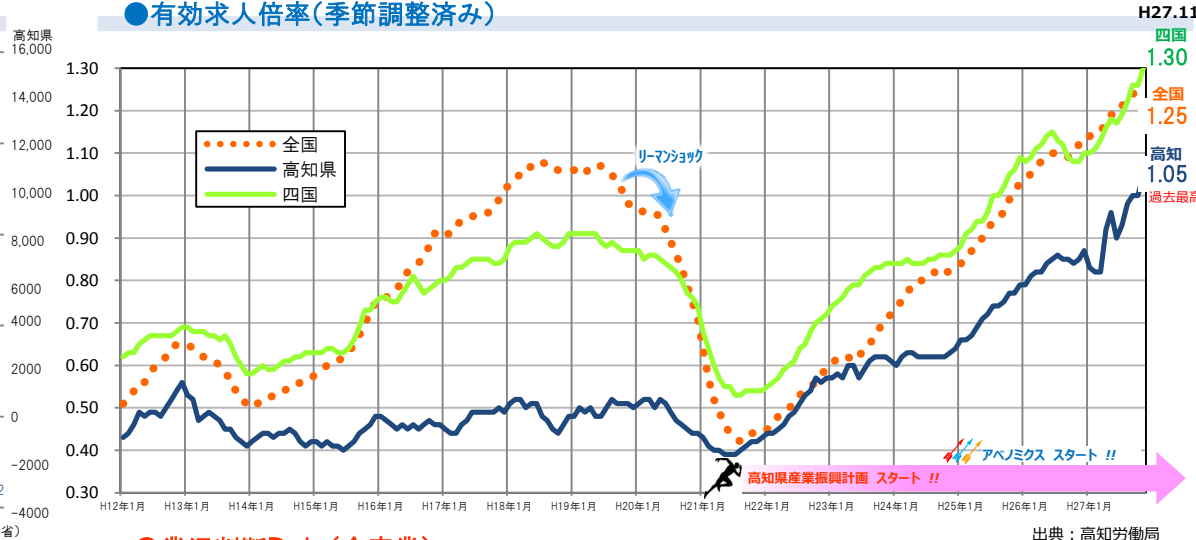
- 人口の自然減・高齢化の進展などにより、
- 平成9年から19年にかけて**県内市場はどんどん縮小**
- 平成14年から22年頃にかけて**景気の回復の波に乗れず、全国平均等に大きく引き離される状況が続いてきました**

○今は、有効求人倍率に加え、業況判断D.I.の推移を見ても、全国と同じように上がってきつつあります

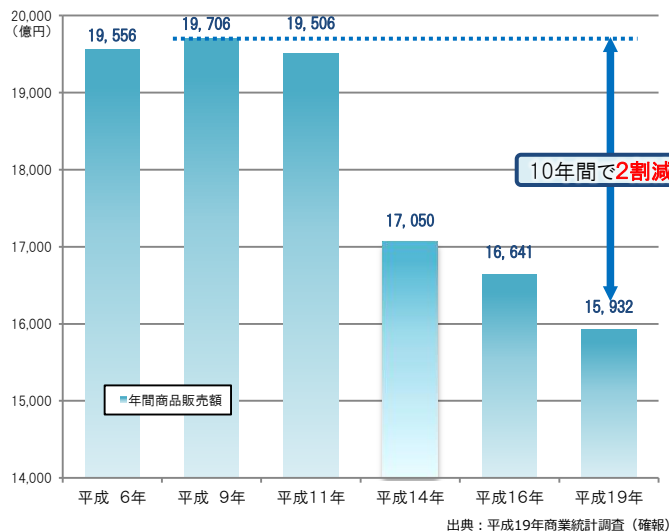
●人口の自然増減数(全国と高知県との比較)



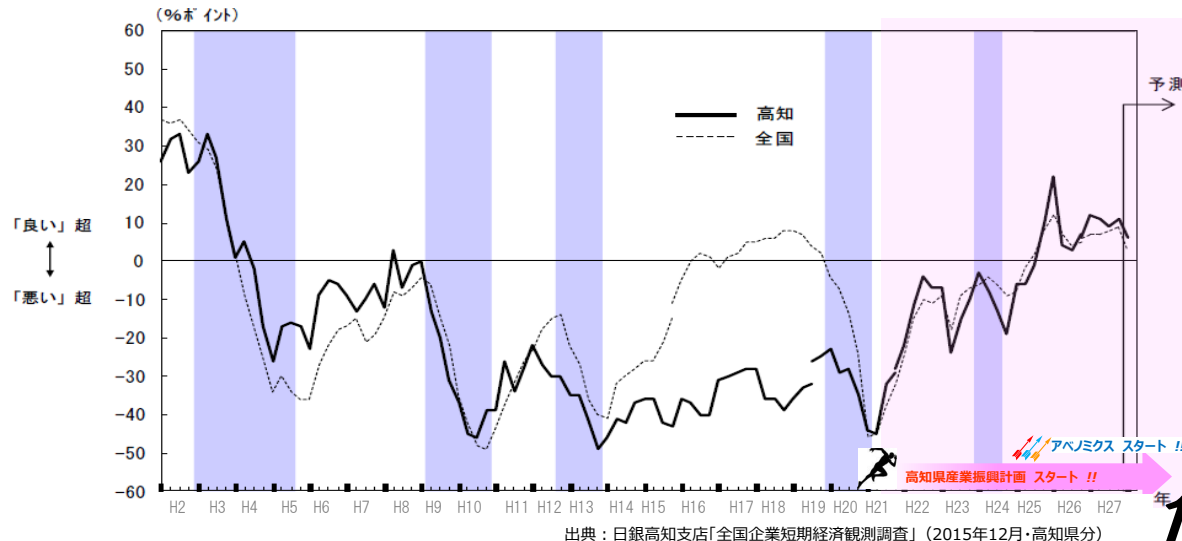
●有効求人倍率(季節調整済み)



●高知県の年間商品販売額の推移



●業況判断D.I.(全産業)



高知県における有効求人倍率上昇の背景（ポイント）

- 高知県における近年の有効求人倍率上昇の背景は、主に各分野の産出額の増加に伴い新たな雇用の場が創出されたことにより、求人数が大幅に増加したことによるもの
- なお、近年、転出者数は減少傾向にあり、社会減も過去の景気回復局面と比べても大幅に縮小

生産年齢人口の減少

生産年齢人口割合

H20.10
60.0%



H27.11
55.3%

▲4.7%

にも関わらず

地産外商が進み

各分野の産出額等が増加

原木生産量、
観光総消費額等の拡大

完全失業率の低下

四半期の完全失業率

H20年平均
4.8



H27年第3四半期
2.7

雇用保険被保険者数の増加

1カ月の雇用保険被保険者数

H20年度平均
179千人



H27.11
193千人

+7.8%

求職者数の減少

1カ月の求職者数

H20年度平均
17,538人



H27.11
13,286人

▲24.2%

求人数の増加

1カ月の求人数

H20年度平均
8,045人



H27.11
14,150人

+75.9%

【課題】

◆ 正社員有効求人倍率 0.56（過去最高、全国45位）
（H27.11）

◆ 地域間格差
（有効求人倍率(H27.11)）
高知地域 1.20、四万十地域 0.76、いの地域 0.64

※有効求人倍率は原数値

有効求人倍率の上昇

月の有効求人倍率

H20年度平均
0.46



H27.11
1.05

（参考）社会増減の動向

転出者数の減少

1年間の転出者数

H20年

H26年

▲14,149人

▲11,197人

社会減の縮小

1年間の社会増減数

H20年

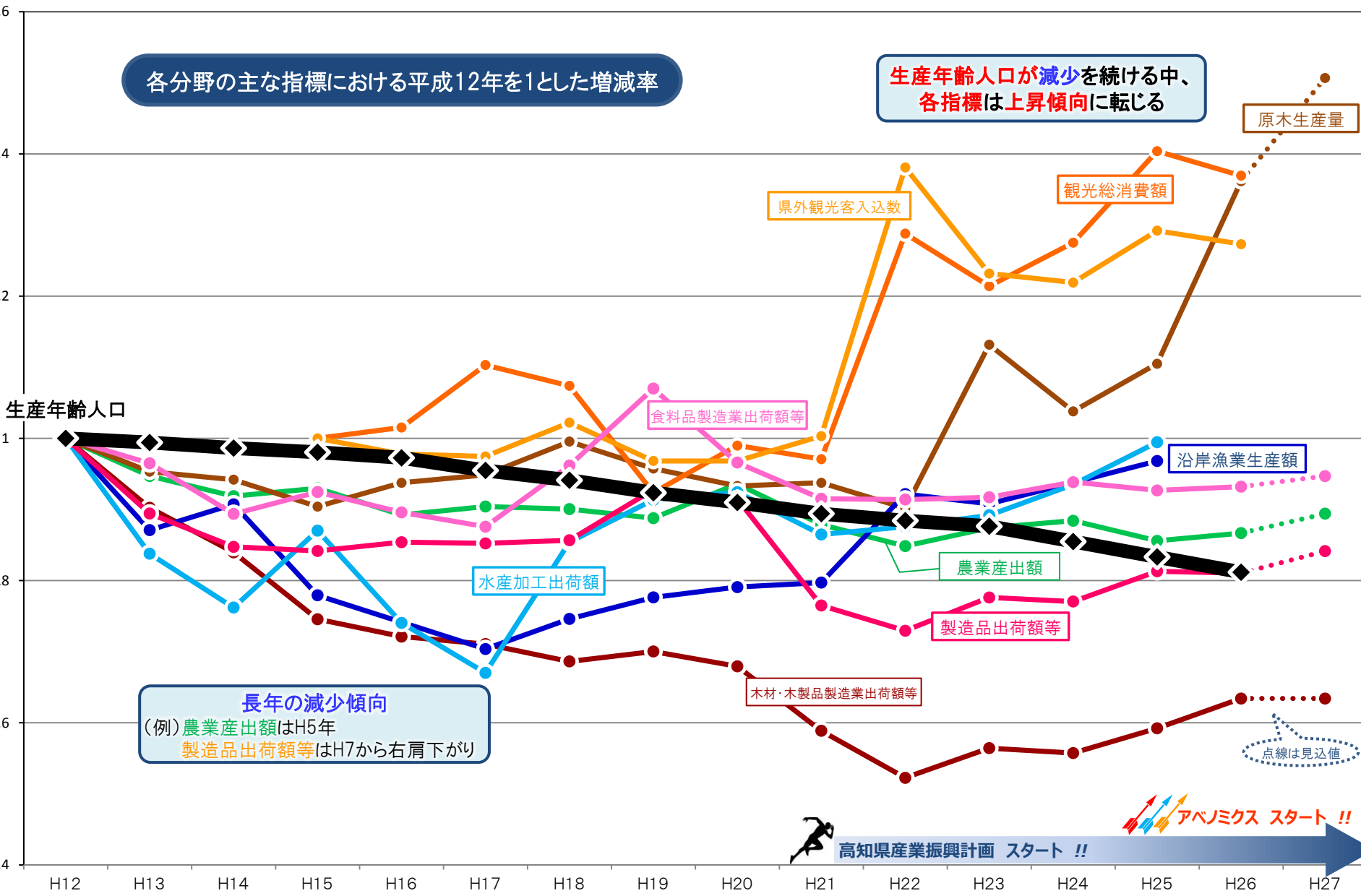
H26年

▲4,321人

▲2,179人

各分野の主な指標における平成12年を1とした増減率

生産年齢人口が減少を続ける中、各指標は上昇傾向に転じる



長年の減少傾向
 (例) 農業産出額はH5年
 製造品出荷額等はH7から右肩下がり



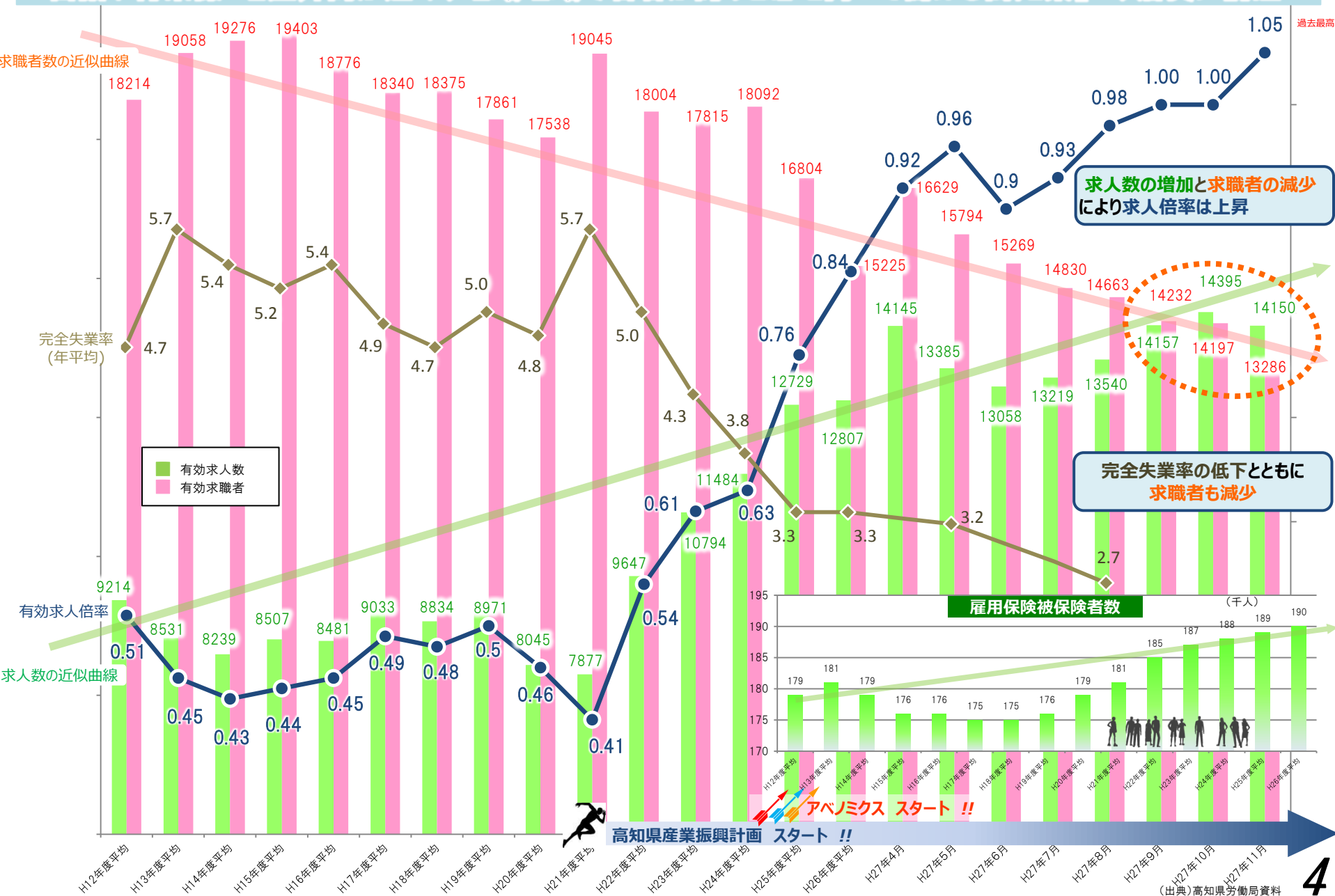
高知県産業振興計画 スタート !!

アベノミクス スタート !!

点線は見込値

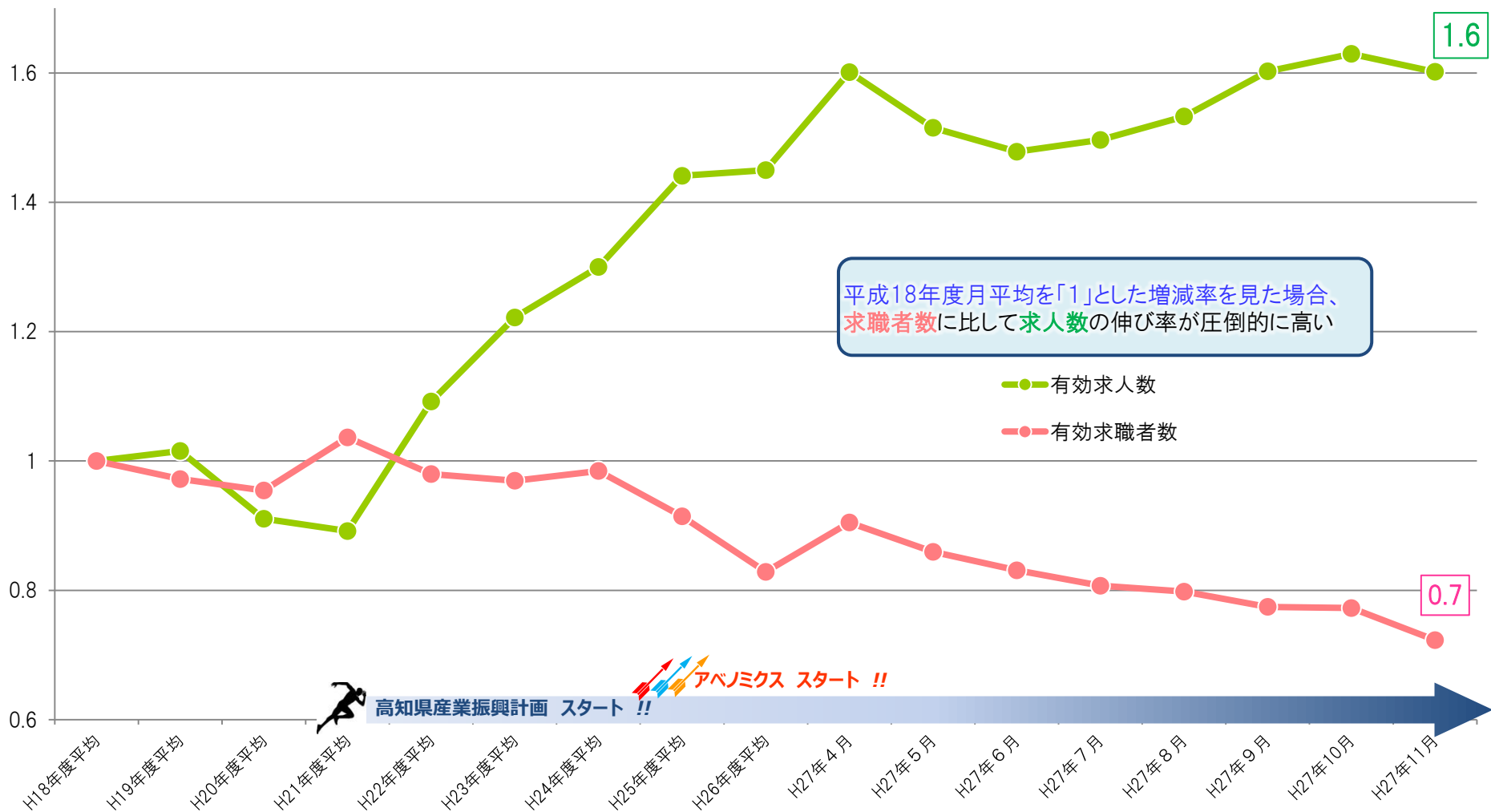
過去最高を記録した有効求人倍率

～目指す将来像「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」へ、着実に前進～



(出典)高知県労働局資料

求人数・求職者数の増減率(平成18年度月平均を「1」とした場合)



景気動向と人口の社会増減の推移

～過去の景気回復局面と比べても、社会減の幅は縮小～

